

## 鹿児島県立錦江湾高等学校

BSアンテナを用いた太陽の表面温度測定

## チームの力で部分日食を観測する

いい意味で「ほったらかし状態」

桜島と錦江湾を一望する鹿児島県立錦江湾高等学校では、化学研究部の太陽表面温度測定チームが、2019年12月26日の部分日食観測に向けて準備を進めている。BSアンテナで太陽電波をとらえる研究で、検波器を自作したほかアンテナ形状による測定値の違いなど、先行事例にない研究も進めてきた。

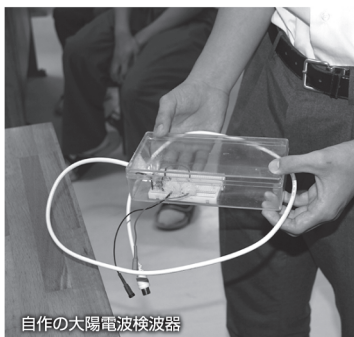
顧問の河野裕一郎教諭は、「自分たちで大学の先生と連絡をとりながら、自主的に動いています。いい意味で“ほったらかし状態”ですね」と笑う。この方針は他の研究チームでも同じで、25人の部員を束ねる黒瀬千晴部長は、「個性が強い人が多くて大変ですが、1年生の時から自主性は鍛えられているので、みんな自分たちで動いてくれます」と話す。



化学研究部のメンバー



小学生に太陽電波の集め方を説明する生徒たち



自作の太陽電波検波器



## ●実施担当

河野裕一郎 教諭

## ●活動のモットー

何にでも挑戦する生徒になるように、「失敗してもいい」と伝えている。挑戦しなければ可能性はゼロ%なので、挑戦することに貪欲であってほしい。



校内から見た桜島



化学研究部先輩の活動が新聞記事に

部員まかせの実験イベント

事実、夏の恒例行事であるファミリー向け科学実験イベントでは、河野教諭は日時を伝えるだけで、企画・運営は部員まかせだ。こうすることで自然とリーダーシップをとる者が現れ、部員たちも自主的に動きはじめるのだという。河野教諭は「器を用意すれば人は育つという、ある意味、教師の醍醐味を味わっています」と語る。

また、イベントを通して部員たちのプレゼンテーション力やコミュニケーション能力は格段に上がり、「コミュニケーション不足で起きるクラスのトラブルなども少なくなる」のだという。

こうした河野教諭のねらいを知ってか、太陽表面温度測定チームの山下尋翔さんは「部分日食の直前まで、自主的にしっかりと準備したい」と話し、同じく白濱愛音さんは「意見のすれ違いが無いように、話し合いを大切にしたいです」と意気込みを語ってくれた。

(令和元年度個別助成)

## 学校概要



平成17年度からスーパーサイエンスハイスクールに指定。普通科、理数科ともに全校体制で生徒の主体的な課題研究を推進。

設立: 1971年

生徒数: 695人

所在地: 鹿児島県鹿児島市平川町4047番地

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索